

仲 誠一 さん（「異文化理解講座」講師、元JICAシニアボランティア）の投稿です。

もう一つの幸せ

バヌアツ・ナバンガ ピキニニ友好協会と伊丹市とのご縁は、2017・2018年の7月、伊丹市立図書館「ことば蔵」で、南太平洋の島国、バヌアツの魅力伝える写真展・児童画展開催がはじまりです。

2年間のJICAシニアボランティアの経験から西洋の物質文明社会とは違った「もう一つの幸せ」についてお話させていただきました。

電気・ガス・水道もない社会…。でも、美しい自然があふれ、コミュニティのつながりのなかで、家族と一緒に暮らす。子ども達には笑顔があふれ、ひとみは輝いています。

バヌアツ・ツアーに参加した3歳の女の子は、夕方、おばあさんに、「でんきは、まだつけないでね、バヌアツみたいになりたいの」と言って、しばらくは暗い部屋で過ごしたそうです。

バヌアツは国民総生産で計れば、150位にも満たない国ですが、幸福度で世界一になった国です。

私たちは、若い人、とりわけ子どもたちにバヌアツの「もう一つの幸せ」を体験してほしいと思います。いまにも降り注いできそうな満天の星、ひょっとするとウミガメやジュゴンにあえるかもしれない海での遊泳…。そんな村での経験は子どもたちの大きな財産となるだけでなく、世界に目を開いた若者につながります。そんな若い人たちが、これからの日本を平和な、住みやすい社会に導いて行ってくれるでしょう。

一人でも多くの方にバヌアツに行っていたきたいです。みなさまとご一緒できるとうれしいですね。



アレックス・メイ さん（「日本語学習サロン」学習者）の投稿です。

皆さんこんにちは。アレックス・メイと申します。アメリカで生まれ、育ちました。現在伊丹市内の小学校で英語指導助手（ALT）として働いています。この仕事の第一の目的は、日本人の小学生と交流することです。子どもたちが楽しく外国語を勉強するように、それと外国人と触れ合うことに慣れるように、できるだけ英語で接しています。分かってくれないことはもちろんあるのですが、むしろ言葉の壁を乗り越えてやっと言いたいことが通じるとき子どもたちの喜びは何よりだと思えます。

さて、日本で生活するには、日本語学習サロンは不可欠です。ボランティアの先生方は生徒の実力に応じて、向上させるために様々な手段で教えてくれます。日本語を勉強するだけでなく、日本の豊かな文化についても学ぶ機会があります。基本的に授業は先生と一対一で行われますが、季節的なイベントを通して他の先生や生徒とも交流できます。世界の様々な国からの方と共に学ぶと、自然に視野が広がっていきます。これからも、色々な国の方と一緒に勉強したり、話したりしたいと思えます。少しでも「もっと日本語話したい!」と思っていらっしゃる方は、ぜひご参加ください。



いまは漢字能力検定の勉強をしています